

Tachyon

[タキオン]



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員の spirit から発せられるよう念願し、本誌のタイトルとして選ばれたのが「タキオン」(Tachyon)です。Tachyon は、未だ確認されていない粒子ですが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「ταχύς (速い)」を語源とします。
(図出典：Institut for teoretisk Fysik)

We Enjoy Campus Life バスケットボールサークル

※本学 HP では、広報室
学生委員によるサークル突撃
取材の記事を公開しています。



01 公立小松大学、新たな章へ 理事長・学長インタビュー

03 大学TOPICS

05 飛び立とう！世界のキャンパスへ（留学体験記）

06 教員紹介 フィットレル・アーロン 国際文化交流学科 准教授

07 令和 9 年度入学者選抜試験・第 9 回青松祭

vol.17
2026.09

令和 9 年度 (2027 年度) 公立小松大学入学者選抜試験

令和 9 年度 (2027 年度) 入学者選抜より入試制度の新設や試験場の追加があります。

NEW

全学科 外国人留学生特別選抜 新設

●外国籍の方を対象とした選抜区分を新設します。

NEW

国際文化交流学科 一般選抜（前期日程）名古屋試験場追加

●本学（中央キャンパス）に加えて、名古屋試験場を追加します。
●名古屋試験場では、生産システム科学科と国際文化交流学科の 2 学科での実施となります。

令和 9 年度 (2027 年度) 入学者選抜日程

区分		出願期間	試験日	合格発表	入学手続期限
学校推薦型選抜	地域推薦 (市内、県内、北陸3県)	11月2日(月)～ 11月6日(金)	11月14日(土)	12月1日(火)	12月8日(火)
	一般推薦	12月7日(月)～ 12月11日(金)	12月19日(土)	令和9年 2月10日(水)	令和9年 2月17日(水)
一般選抜	前期日程	令和9年 1月25日(月)～ 2月3日(水)	令和9年 2月25日(木)	令和9年 3月5日(金)	令和9年 3月15日(月)
	中期日程		令和9年 3月10日(水)	令和9年 3月20日(土)	令和9年 3月27日(土)
社会人選抜		11月2日(月)～ 11月6日(金)	11月14日(土)	12月1日(火)	12月8日(火)
外国にルーツをもつ生徒を 対象とした特別選抜		11月2日(月)～ 11月6日(金)	11月14日(土)	12月1日(火)	12月8日(火)
外国人留学生特別選抜		11月2日(月)～ 11月13日(金)	12月19日(土)	12月25日(金)	令和9年 1月13日(水)

募集人員・試験内容などの詳細は、学生募集要項をご確認ください。
学校推薦型選抜、社会人選抜、外国ルーツ選抜、外国人留学生特別選抜の学生募集要項は 9 月頃、
一般選抜の学生募集要項は 10 月頃に公立小松大学のホームページで公表します。



公立小松大学祭「第 9 回青松祭」

せいしょうさい

青松祭

日時 **10月17日(日)18日(月)** 10:00～17:00
(18日は15:00まで)

場所 **中央キャンパス
小松駅前市民公園**

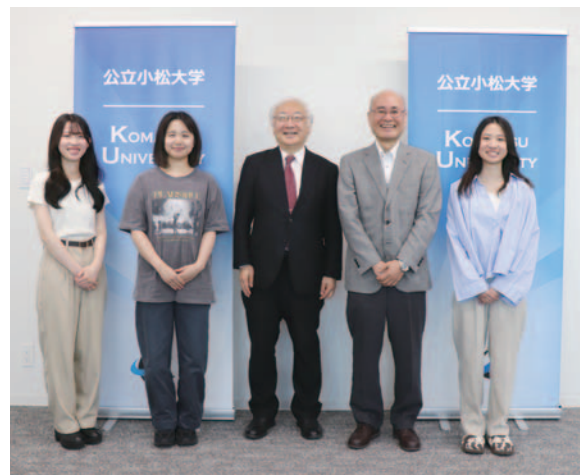
地域の皆様・学生・来場者の皆様が繋がることが
できる青松祭を目指し、準備を進めています！
昨年好評だった企画に加え、新たな企画もご用意！
豪華ゲストもお呼びします！お楽しみに！
是非 2 日間ともご来場ください！！

今年のテーマ

青で会おう！
COMATSU Connect



青松祭実行委員



取材した広報室学生委員と小松理事長、志村学長

お二人の部活動経験も気になります！
学長 高校時代は陸上部で短距離をしていて、四〇〇mリレーではアンカーも務めました。県大会止まりですけどね(笑)。野球も好きで、よく娘とキャッチボールをしていました。実はスポーツが好きなんです。
理事長 少しテニスをしていた程度で、スポーツはあまり(笑)。部活は小学校から高校まで美術部で、高校三年間は陶芸に打ち込みました。焼き物では、その時に出会った九谷焼が当時から一番好きです。
公立小松大学の印象をお聞かせください。
理事長 学生さんたちが本当にいいですね。垢抜けていて素敵で、挨拶をちゃんと返してくれる。それだけで嬉しくなります。規模感もちょうどいい。先生も職員も互いに気を配り合って、小規模ながら意気を持ってやっている。小松市民の皆さんが大切にしてくださっているのを感じます。お旅まつりの曳山で人手が足りないとなれば学生さんたちがわあっと手伝いに駆け出して行くような関係、大切にしたいです。まだ若い大学ですが、だからこそこれからどんな伸びていける時期。こ

ちが頑張らないと申し訳ないという責任感を感じさせてくれる、そんな印象です。
学長 私が勤務した大学としては三つ目になります。理事長がおっしゃったこと、本当にそうだと思います。学生と教員、学生と職員、教員と職員、全方向で和気あいあいとした雰囲気があります。小規模だから距離は近いけど、馴れ馴れしい感じではなく、爽やかな近さというか。それから、建物のせいもあるかもしれないませんが、なんだか透明感を感じますね、公立小松大学って。
公立小松大学の将来のビジョンについて聞かせください。
理事長 大学憲章にもある「グローバル」を前提に、将来のビジョンは三つあります。一つ目は南加賀という金沢とはまた違う良さをもっと活かすこと。二つ目は、自由と自立そして仲間。一人ひとりが大事だけど、一人でやるわけじゃない。校歌にもあるように、共に楽しく学べる場であってほしいですね。三つ目は、組織で働くのでも起業するのでも家庭に入るのでも、自分の立ち位置でみんなと一緒により良くしていく楽しさが、理屈なく身につく場になりたい。地方都市はこれからますます大変になります。でも可能性もある。だからこそ、社会人や留学生も含め、いろんな人が学べる拠点になればと思います。
学長 中身は理事長とまったく同じです。私なりの言い方をすると、地域活性化に大きく寄与する小規模総合大学、というあり方ですね。生き生きとしたグローバル人材の育成が教育の目標だと思っています。大学は、学生が学位を取る場というだけじゃなくて、いろんな学び方があっていい。老いも若きも、いろんな国の人も、支援を必要とする人も共に学び合える場になると、若い学生さんたちにもきつといい刺激になる。南加賀の「学びの

笑顔の絶えないインタビューでした

広報室学生委員

学生ならではの視点を生かして公立小松大学の魅力を発信しています。現在 25 名で活動中！

▲Instagramはこちら

村中 瑞葵さん (国際文化交流学科3年)
 和嶋 菜々子さん (国際文化交流学科3年)
 橋井 愛子さん (国際文化交流学科4年)

PROFILE

理事長 小松 親次郎

1956 年西独生まれ。
 早稲田大学政治経済学部卒業。
 1981 年文部省 (現文部科学省) 入省。
 1988 年～1990 年石川県庁勤務。
 大学振興課長、私学部長、研究振興局長、初等中等教育局長等を経て文部科学審議官。
 2020 年駐コスタリカ特命全権大使。
 退官後、政策研究大学院大学特任教授等。
 2026 年より現職。
 経済協力開発機構 (OECD) 教育研究革新センター日本代表理事、国際大学理事等を務める。

学長 志村 恵

1967 年高知県生まれ。
 名古屋大学文学部卒業。大学院は、名古屋大学とミュンヘン大学で学ぶ。
 1987 年名古屋大学文学部に採用 (ドイツ文学科助手)。
 1991 年～2024 年金沢大学に勤務 (担当：ドイツ学)。留学生センター長、学生支援担当学長補佐、ハラスメント防止担当学長補佐、国際学類長、国際担当副学長等を歴任。
 2024 年公立小松大学副学長。
 2026 年より現職。

SPECIAL FEATURE 公立小松大学 新たな章へ

令和 8 年 4 月に就任した理事長・学長に
 これまでのご経験やお人柄
 これから目指す未来について伺いました

理事長 小松 親次郎

好きな食べ物：おにぎり
 バリエーションが無限大だから。食べた後の余韻も楽しめます。
好きな動物：ペンギン・電気ウナギ・コリ
 笑えるけど自身は至って真剣なペンギン、ここ一番の集中力が頼もしい電気ウナギ、深く考えて賢そうなコリ。
私を表す 5 つのキーワード：ゆっくり型、迷子癖、本、雑食動物、志操
 のんびり派で、迷子になることもしょっちゅう (笑)。本や映画、芸術など何でも楽しむ雑食動物。「志操」は信念がぶれないことを表わす憧れの言葉です。

学長 志村 恵

好きな食べ物：ワインに合うもの
 基本的に毎日飲んでいるので、お酒が美味しく飲める食べ物が一番です。
好きな動物：カワウソ
 ふにふにによって可愛いのと、日本最後の目撃地が生まれ故郷の高知県須崎市という縁も。
私を表す 5 つのキーワード：音楽、キリスト教、一卵性双生児、料理・ケーキ作り、やっぱりドイツ！
 クラシック音楽とキリスト教が精神的な支え。双子の弟とは離れていても不思議なほど人生が重なります。手作りケーキは学生や職員にもお裾分けすることも。



小松 親次郎 理事長
 中国訪問時 (大学2年次)

広報室学生委員です。
今日はよろしくお願いします。
早速ですが、簡単な自己紹介をお願いしますか？
小松理事長 (以下・理事長) 親の仕事の関係でドイツで生まれ、東京で育ちました。幼い頃から感じていた文化的なギャップや、人とのつながりは当たり前じゃないという気づきが、教育や文化への関心につながっていきました。大学で国際政治のゼミを選んだのも、自分のアイデンティティを確かめたかったからだと思っています。卒業後は文部科学省に長く勤務し、大学行政にも携わりました。その後も外交官や大学教員など色々経験が広がる幸運に恵まれました。石川県庁勤務のご縁もあって、**小松市は心から大好きなまち**です。学生時代はサークル活動も楽しみなが勉強にも力を入れていました。その時に得た友人とは、今もいい関係が続いています。
志村学長 (以下・学長) 高知県生まれで、高松・名古屋と移り住み、名古屋の大学でドイツ文学を専攻しました。幼い頃にドイツ人の友達と毎日遊んだ記憶と、音楽好きからドイツ音楽に興味を持ったことがきっかけです。もう少しピアノが上手だったら音楽の先生になっていたかもかもしれません。学生時代は環境系・人権系の NGO に関わり、**今もボランティア活動を続けています**。ボランティア活動の経験から普通のサラリーマンは向いていないかもと感じて大学教員の道へ進み、ご縁が

あつて公立小松大学に着任しました。
お休みの日は、何をなさっていますか？
理事長 休日にはまち歩きを楽しんでいます。が、天気が悪い日は家事や書類整理、あとはのんびり過ごしていますね。小松は方向音痴だからその出会いもあるまちで、先日も美術館を目指したのに全然たどり着けず、思いがけない場所に出してしまいました (笑)。皆さん普段はあまり自覚していないかもしれないけど、本当にいいまちだと思います。時代の変化に色々対応しながら、町家などの風情ある町並みが今もこれだけ残っているところは、日本の中でもなかなかないですよ。
学長 時間があれば音楽を聴いたり、ソナチネレベルのピアノを弾いたり (笑)。料理も好きで、週末は三食自分で作ることも多いです。ケーキを作ることも好きなんです。あとは千葉にいる三人の孫に会いに行くこと。たいてい日帰りで、四〜五時間しかいられませんけど。それから北陸道を少しずつ歩いて踏破する挑戦も続けていて、金沢からスタートし、一回一〇kmほどのペースで、ようやく武生まで来ました。次は米原を目指したいですね。
ケーキ以外のお菓子も作られますか？
学長 和菓子はあんまり作らないけど、草餅は母の味に近づけるために研究しましたね。
理事長 私も、まち歩きをしながら小松のお菓子屋さんを巡っていますよ。おいしいお店を研究しているんです。



志村 恵 学長
 留学中スイスの駅にて (大学3年次)

2026年9月～2027年3月 スケジュール

2026 年

～9月30日(水)
夏季休業

10月1日(木)
後期授業開始

10月3日(土)
次世代考古学研究中心セミナー

10月17日(土)、18日(日)
大学祭「青松祭」

10月28日(水)
シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

10月31日(土)
市民公開フォーラム

11月14日(土)
学校推薦型選抜(地域推薦)、
外国にルーツをもつ生徒を対象と
した特別選抜、社会人選抜

12月19日(土)
学校推薦型選抜(一般推薦)
外国人留学生特別選抜

12月26日(土)～1月5日(火)
冬季休業

2027 年

1月16日(土)・17日(日)
大学入学共通テスト

2月2日(火)～12日(金)
後期試験(補講・試験予備日含む)

2月13日(土)～4月上旬
春季休業

2月25日(木)
一般選抜(前期日程)

3月10日(水)
一般選抜(中期日程)

3月23日(火)
学位記授与式

輝く公立小松大生

第65回日本生体医工学会大会で各賞を受賞

- Young Investigator's Award 最優秀賞M系
木工 愛斗さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程1年)
- Young Investigator's Award 優秀賞M系
岡本 大輝さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程1年)
- 臨床工学技士 研究発表奨励賞 最優秀賞
佐藤 眞耶さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程2年)
- 臨床工学技士 研究発表奨励賞 優秀賞
新田 亮介さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程2年)



(左から) 新田 亮介さん、
木工 愛斗さん、岡本 大輝さん



(左から) 山岡 哲二 教授
(佐藤さんの指導教員)、
佐藤 眞耶さん、新田 亮介さん

第19回石川県臨床工学会で各賞を受賞

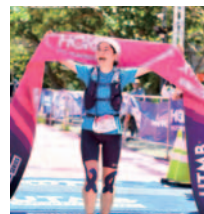
- 若手研究優秀賞
木工 愛斗さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程1年)
- 若手研究敢闘賞
岡本 大輝さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程1年)
- 若手研究奨励賞
新田 亮介さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程2年)



(左から) 岡本 大輝さん、
木工 愛斗さん、新田 亮介さん

国内外のトレイルランニングレースで入賞

- 枝元 香菜子さん
(大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士後期課程3年)
- Xtrail Kenting by UTMB 50km 女子総合優勝
- ASO VOLCANO TRAIL 114km 女子優勝
- Topo Lantau Trail 70 女子18～35歳の部優勝・女子総合2位
その他、入賞多数



Xtrail Kenting by UTMB
ゴールの瞬間

★学長表彰 受賞者一覧

令和7年度の学業成績が特に優秀だったとして、各学科から推薦された
下記46名が学長表彰に選ばれました。

【生産システム科学科】(15名)

浅野隼翔、市来洋多、錦織空大、二口信大、村西祐海、岡本晃典、坂上結衣、
津田真太郎、林田良、播磨聡士、大貝莉子、川北亮介、木村姫優、須谷惺那、
山田優希

【看護学科】(8名)

熊崎愛、塩野愛莉、松井美優、谷内友花、山口百華、北澤由衣、中村衣李、宮下遥

【臨床工学科】(7名)

小川七彩、田中千景、岩橋亜美、工藤美月、水井大智、加賀谷音色、兼松隼希

【国際文化交流学科】(16名)

浅村優芽、遠藤由香、小染奈都子、
田島来望、中西真衣、原唯七、
荒川優矢、上川真厘、中尾心咲、
二羽智子、松永咲良、相地葵生、
木戸みゆ、武部睦生、山口莉乃、
湯森遥菜



国際文化交流学科 表彰式

★同窓会より 中央第2キャンパス 開設記念品の贈呈

6/27
(土)

同窓会の総会・懇親会に併せて、「中央第2キャンパス開設記念品贈呈・除幕式」が行われ、公立小松大学同窓会から遊具「UKABI」2点が贈呈されました。「UKABI」は、揺れを楽しむ浮き輪型のスプリング遊具で、適度な揺れは新しい発想やクリエイティビティの向上につながるとされています。自由な発想を育み、充実した学生生活を送ってほしいという願いが込められたこの記念品は、中央第2キャンパスの学生ホールに設置されています。



贈呈された「UKABI」



中央第2キャンパス
開設記念品贈呈・除幕式にて

★学生スタッフも活躍 オープンキャンパス2026

7/18
(土)

3キャンパスで「オープンキャンパス2026」を開催しました。参加者約900名が学科説明や模擬講義、体験企画、キャンパス見学、学生交流など様々なプログラムに参加し、どのキャンパスも終始活気にあふれていました。



看護学科 体験内容の説明



学生相談の様子

★アカデミック リーダーズセミナー (全6回)を開催

6～8月

中央第2キャンパスにて、公立小松大学市民公開講座～Open UniverCity～「アカデミックリーダーズセミナー」を開催しました。本セミナーは、公立小松大学理事長・学長・副学長・学部長が講師を務める全6回の特別講座で、延べ約500名の申し込みがあり、ご好評をいただきました。最終回では、小松理事長から全講座を受講された12名の受講者に修了証書と記念品が授与されたほか、会場に美しい生け花を展示いただいた寺西様へ感謝状が贈呈されました。



修了証書及び感謝状を授与された皆様

公立小松大学 TOPICS

2026年3月～8月

★令和7年度 学位記授与式を開催

3/23
(月)

こまつ北電ホールにて令和7年度学位記授与式を行い、3学部4学科の卒業生246名と大学院サステナブルシステム科学研究科の修了生22名に学位記を授与しました。生産システム科学科の青木 友里さんが卒業生代表挨拶を行い、大学院サステナブルシステム科学研究科グローバル文化専攻博士前期課程の上林 あいさんが修了生代表挨拶を行いました。それぞれ、学生生活での挑戦と学びについて述べ、学生生活を支えた教職員、学友、家族への感謝で締めくくりました。



卒業生代表挨拶を行った青木 友里さん

★令和8年度 入学宣誓式を開催

4/2
(水)

こまつ北電ホールにて令和8年度入学宣誓式を行い、生産システム科学科82名、看護学科51名、臨床工学科30名、国際文化交流学科86名、大学院サステナブルシステム科学研究科博士前期課程46名、後期課程3名の合計298名が入学しました。

志村学長による入学許可の後、入学生を代表して生産システム科学科の新宅 優飛さんと大学院サステナブルシステム科学研究科ヘルスケアシステム科学専攻博士前期課程の佐藤 玲実さんが宣誓を行いました。



入学生代表宣誓を行った新宅 優飛さん

★お旅まつり 曳山行列に参加

5/9
(土)

お旅まつりの「曳山曳揃え」に学生、留学生、教職員の計25名が参加し、「よーいや八寸(はっすん)」の掛け声に合わせて、町の方々と協力して曳山を曳きました。地域の方々との交流を通して小松の文化を肌で感じ、伝統文化への理解を深める貴重な体験となりました。



曳山を曳く様子



フィットレル・アーロン

Fittler Áron 准教授
(国際文化交流学科)

和歌の翻訳で 世界とつながる

日本古典文学、特に和歌の外国語訳について、翻訳実践と外国の文学・文化との比較という二つの視点から研究しています。翻訳の際には言語の違いだけでなく、文化的背景やイメージの違いも考慮する必要があるため、日本文学・文化の特徴をより正確に伝える新しい翻訳方法を探求しています。二〇二〇年度からは和歌の多言語翻訳に関する研究会を主催し、翻訳の分析を通じて、和歌と日本文化が世界各地にどのように伝わっている

研究の原点は 翻訳の物足りなさ

日本古典文学の翻訳研究を志したきっかけは、母国ハンガリーで日本古典文学作品の翻訳が少なく、既存の翻訳にも日本文学・文化の特質が十分伝わっていないと感じたことです。自らハンガリー語訳を試みる中で、その方法を学術的に裏付けたいと考え、実践的視点を取り入れた翻訳研究を志すようになった。

かを明らかにするとともに、和歌を通して国際的なつながりの構築も目指しています。

新しい発見を 次の世代へ

これまで注目されなかった視点や新解釈を発見すること、日本古典文学を他文化に伝える新しい方法を開拓し、そこから新しい翻訳が生まれることに研究の醍醐味を感じています。

自分が魅力を感じている日本古典文学を、若い世代に伝えることに教育の面白さがあります。古語で書かれ、考え方や習俗も現代の日本と異なるため馴染みがないと感じる人が多いでしょう。しかし、そこには現代の日本人はもちろん、世界のどの地域の人にも通じるものが多くあります。そのことに気づいてもらうのが、教育の大きな課題だと思います。

日本古典文学は 今の私たちに響く言葉

国際文化交流学科では、地域文化の理解と同時に、世界各国の言語・文化を学び、国際的な

私の休日

holiday



越前市の紫部公園にて

休日は旅行やハイキング・山登りに出かけることが多いです。和歌や日記に描かれた場所を巡り、その風景を現在と照らし合わせること好きです。



主催している日本古典文学多言語訳研究会の報告書第4回研究会「世界の中の和歌」(2024年刊)



フィットレル・アーロン訳注「更級日記」ハンガリー語版(2018年刊)

飛び立とう！ 世界のキャンパスへ

本学では、海外語学研修や異文化体験実習を14プログラム実施しています。2025年夏から2026年春にかけて行われたプログラムの中から、学生の体験記の一部をご紹介します！

ワイカト大学カレッジ (ニュージーランド) 2025年8月25日(月)～9月12日(金)

看護学科2年 宮下 遥

英語を使って看護師として外国人をサポートしたいという夢の実現のため、英語力向上を目的にニュージーランドへの留学を志した。また、現地の美しい自然や多様な文化に触れて理解を深めたい、医療制度を学び将来外国で働く道を考えてみたい、という思いもあった。

この留学は、私にとってかけがえのない経験になった。ホームシックなど辛いこともあったが、それを乗り越えて勇気を出して行動できたことは、自分にとって大きな変化だった。また、目標に向かって努力する人たちの姿に勇気もらい、積極的に意見を伝える姿に刺激を受け、自分も変わりたいと思うようになった。留学生活を通して自分自身を見つめ直し、これからの課題も見えてきた。そして、将来は海外で働くことも選択肢の一つとして考えるようになった。

留学を終え、授業やホストファミリー、友達との交流を通じて積極的に英語で会話できるようになり、スピーキング力が向上したほか、授業中に自分から発言する積極性も身についたと感じている。さらに、ニュージーランドの自然やマオリの歓迎の儀式、文化学習を通じて、多様な文化・民族が当たり前として受け入れられている様子を肌で感じる事ができた。一方で、ライティング力の向上と医療体制の調査は十分にできなかった。振り返ると、当初の目的に対する達成度は全体で75%ほどだったと思う。この留学で学んだことを活かし、自分の課題を改善しながら、今後の成長につなげていきたい。



ホストファミリーと



ホストシスターの学校で

国立中山大学 (台湾) 2026年3月2日(月)～3月20日(金)

国際文化交流学科3年 徳田 茉桜

私は大学2年の春休みに、語学力向上と異文化体験・異文化交流を目的として、台湾の国立中山大学で3週間の中国語語学研修に参加した。

授業はスピーキング中心で行われ、最初は戸惑ったが、繰り返し聞いて話す練習を重ねることで、短期間で単語や正しい発音を効率的に身につけることができた。特に印象的だったのは、文章を暗記して皆の前で発表する課題である。道案内の文を作成し発表する課題では、内容が多く、発音も難しかったため苦労した。最初は発表で失敗しないことばかり考えていたが、練習を重ねるうちに「失敗してもいいからスムーズに読む」など自分の目標を持てるようになり、緊張せずに発表できるようになった。先生から「太好了(とても良い。)」と褒められた時は自分の成長を実感し、嬉しかった。

初めての海外滞在で不安もあったが、現地で出会った人々の温かさによって支えられ、充実した生活を送ることができた。この経験で得たコミュニケーション力と柔軟性を、今後の大学生活や就職活動に活かし、さらに成長していきたいと思う。



国立中山大学のキャンパスで仲間たちと



佛光山佛陀紀念館で

グリフィス・カレッジ (アイルランド) 2026年2月21日(土)～3月12日(木)

国際文化交流学科3年 若松 千亜

私がグリフィス・カレッジ英語研修に参加した目的は二つある。一つは英語を話すことへの抵抗をなくすこと、もう一つは周りを気にしすぎず積極的に行動することだ。

ホストファミリーとの交流は英語を話す良い機会となり、自分の言葉で伝えることや、分からないときは聞き返すことを心掛けるうちに、お互いの冗談で笑い合えるようになった。

毎日の授業は全て英語で行われ、様々な国籍の留学生の中で日本人は私一人だった。ゲームを通して文法を学んだり、ペアワークでお互いに考えを話し合ったり、プレゼンと質疑応答をしたりと、実践的な方法で楽しみながら英語に触れることができた。プレゼンの原稿を暗記しようとしていた私に「覚えなくても、思いっつくように話せば伝わるよ」とクラスメートが声をかけてくれ、その言葉通りに聞き手とコミュニケーションをとりながら、活気のある発表ができた。また毎回の授業に生徒全員が積極的に参加する様子があり、分からないことや、間違えることは恥ずかしくない、指摘を受け入れて自分の理解につなげればよいと気づかされた。

この英語研修を通して、自分の英語が正しいのか考える前に話し始めることができるようになり、授業でも間違いを恐れず、自分の考えを伝えることの大切さを学んだ。二つの目的は十分に達成できたと感じている。



ホストマザーと



教会の前で

ヨーロッパ世界遺産研修 2026年3月11日(水)～3月21日(土)

国際文化交流学科3年 明嵐 竜之介

中学高校と学んできたヨーロッパの歴史の舞台を実際に見たいという思いから、この研修に参加した。10日間でドイツ・ルクセンブルク・ベルギー・オランダの4か国を巡るという、他にはない貴重な機会だった。

ドイツでは3大聖堂を訪れ、現代的な街並みにそびえる大聖堂の光景に感動し、建築様式の違いから街ごとに栄えた時代が違っていることを実感した。ツォルフエアアイン炭鉱博物館には、掘削装置や作業員の生活の様子がありのまま展示されており、近代ドイツの歩みを幅広く学ぶことができた。また、ベルギーではアントワープ大学の日本学専攻生と交流した。彼らの流暢な日本語や、外国からの視点で日本を考察するグループワークを通して、同じ大学生として新鮮な刺激を受けた。最も心に残ったルクセンブルクでは、ドイツ、ベルギーと国境を接しながらフランスの影響が色濃く、華やかな雰囲気や荘厳な建物に魅了された。オランダではレンブラントやフェルメールの実物には、その保存状態の良さ、繊細さに感動した。

ヨーロッパの国々は非常に近い距離にありながらも独自の文化があることを毎日の移動の中でも実感し、私の目的は大いに達成された。英語を使う場面ではとっさに返答できたことで、これまでの学習の努力が報われた思いがした。

10日間で4か国を周遊するという濃密な経験は、大変なこともあったが、教室では味わえない学びに満ちていた。



ドイツのマインツ大聖堂で



オランダの風車